

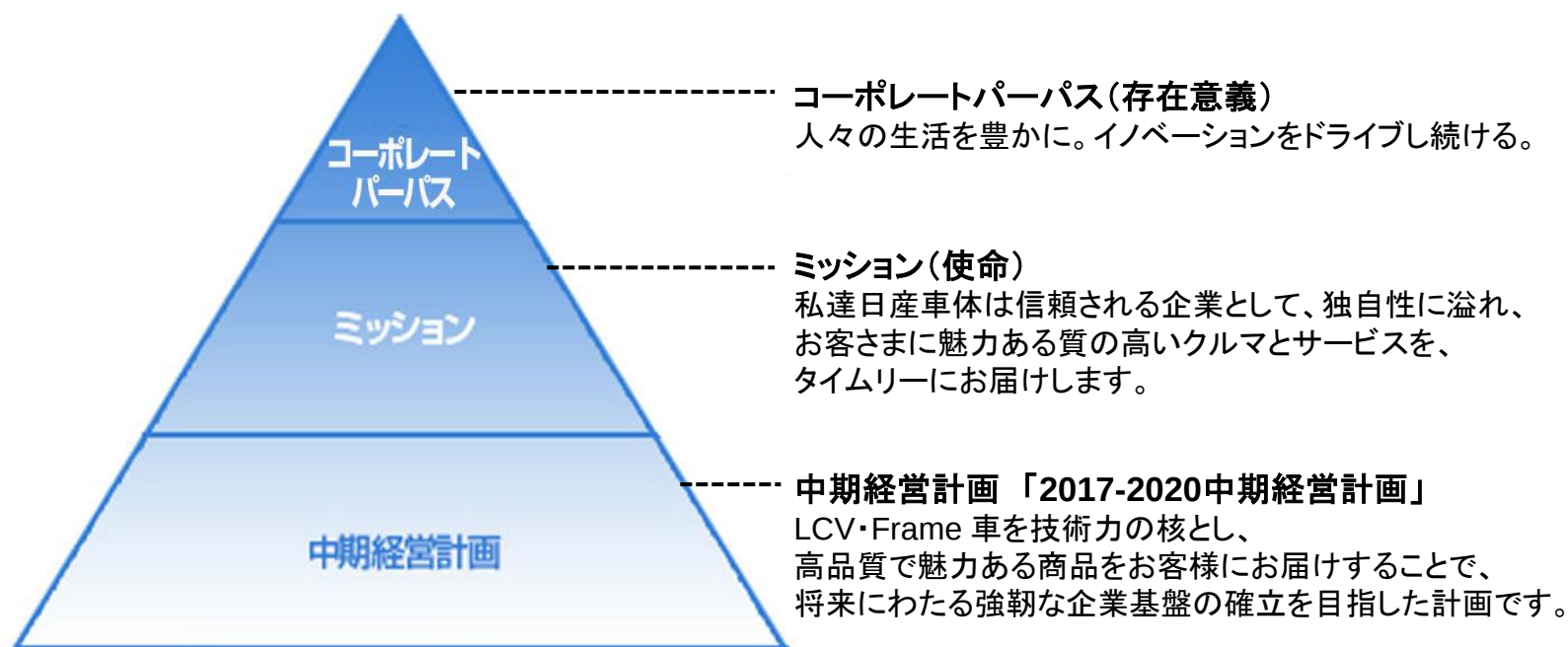
日産車体株式会社 個人投資家向け会社説明資料



2021年11月

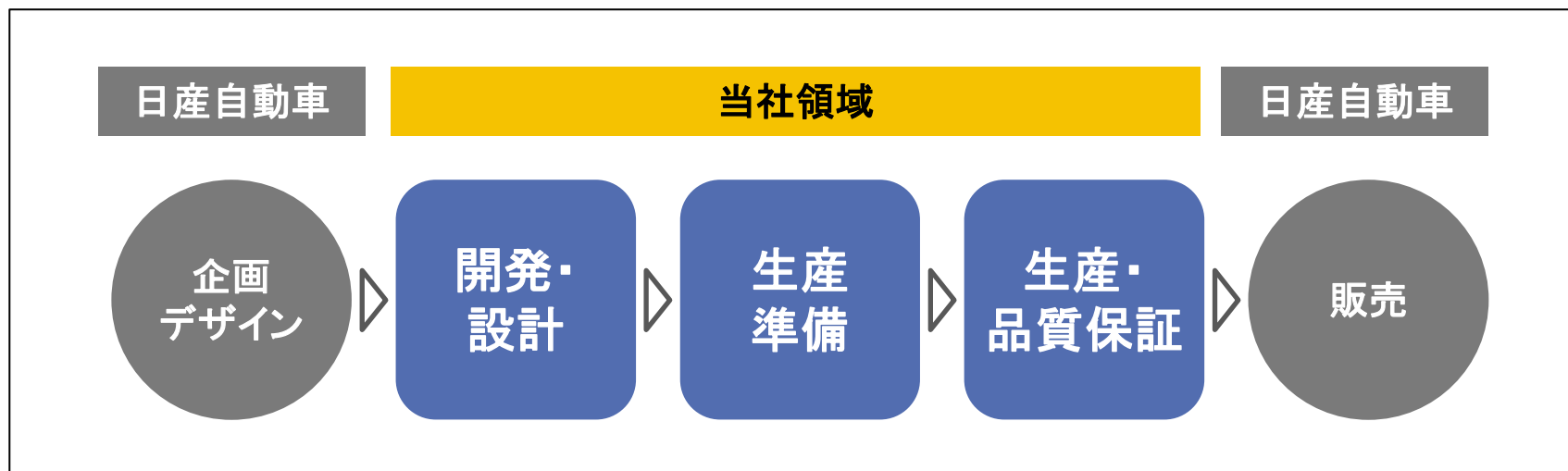
理念体系

日産車体は、「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」というコーポレートパーパス(存在意義)及び「私達日産車体は信頼される企業として、独自性に溢れ、お客さまに魅力ある質の高いクルマとサービスを、タイムリーにお届けします。」というミッション(使命)に基づき、「LCV・Frame 車を技術力の核とし、高品質で魅力ある商品をお客さまにお届けすることで、将来にわたる強靱な企業基盤を確立する」を基本方針とした、2017-2022中期経営計画に取り組んでいます。



Outline

日産車体は、
「LCV・フレーム車」を中心とした開発から生産
までを担う日産グループの完成車メーカーです



LCV: Light Commercial Vehicleの略。小型商用車

フレーム車:トラックやバスに採用される頑丈な梯子フレームにパワートレーンなど走行機能搭載し、その上にキャビンを搭載する構造の車。当社製品:大型SUVのアルマーダ、パトロール、インフィニティQX80、小型トラックのパトロールピックアップ

日産車体グループ

湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点が主軸です

日産車体(株)

日産車体九州(株)

設立	1949年	2007年
事業内容	各種自動車の開発から 品質保証まで	自動車および その部分品の製造・販売
従業員数	1,768名	1,116名
生産拠点	神奈川県平塚市	福岡県苅田町

湘南工場



日産車体九州工場



(2021年3月31日現在)

グループ会社

日産車体マニファクチャリング株式会社

- ▶ 日産車体のプレス部品の製造

日産車体エンジニアリング株式会社

- ▶ 日産車体および日産車体九州の設備保全と物流



- ▶ 働くクルマの架装

日産車体コンピュータサービス株式会社

- ▶ 情報システム構築、ネットワーク構築などのIT関連サービス



- ▶ 人材派遣から職業・人材紹介および各種アウトソーシング

沿革

2019年7月にパトロール(Y62)2020モデル生産開始

年 月	社 歴
2019年	7月パトロール(Y62)2020モデル生産開始
2018年	パラメディック(E26)発表
2016年	6月、日産車体九州で北米向け大型SUVの「新型アルマーダ」生産開始
2014年	3月、新本社を第2地区に竣工・湘南再編完了
2012年	湘南工場第1地区での車両生産を終了、湘南工場第4地区での車両生産を第2地区へ集約、湘南工場の車両生産体制の再編を完了
2010年	日産車体九州稼働開始
2007年	子会社「日産車体九州株式会社」設立／生産累計1,500万台達成
1992年	生産累計1,000万台達成
1951年	日産自動車(株)と提携
1949年	当社前身 新日国工業(株)設立

- ▶ 高級ブランド「インフィニティ」を生産
(日産車体九州)



インフィニティ QX80

- ▶ LCVでグローバル展開をリード



NV200 NY市 タクシー提案モデル

- ▶ ミニバンで現在の基礎を構築



- ▶ 日産車体のルーツを作ったフェアレディZ



グループのご紹介

主な生産車

湘南工場



NV200
VANETTE
NV200 バネット



AD
AD



PATROL
パトロール：Y61



PATROL PICKUP
パトロール ピックアップ



Infiniti QX80
インフィニティ QX80



PATROL
パトロール：Y62



ARMADA
アルマーダ



ELGRAND
エルグランド



CARAVAN
キャラバン

日産車体九州

オートワークス京都



救急・医療関係車両



消防関係車両



幼稚園バス



公共応急作業車両



公共応急作業車両

※ 株式会社オートワークス京都は、パラメディック(高規格救急車)など救急・医療関係車両、消防関係車両、幼稚園バス、公共応急作業車両など働くクルマの架装を行っている日産車体株式会社のグループ会社です。

特長

完成車メーカーとしてのDNAを活かした、 多くの特長を持っています

湘南工場

LCVを中心とした多車種少量生産の
一大拠点



▶ モノコック車



▶ フレーム車

日産車体九州

厳しい品質基準をクリアし、日産のラグジュアリーブ
ランドである「Infiniti」の生産を許されている工場



▶ ローラーヘミングによるエンジンフードの生産



▶ 新塗装技術

特装車

グループ内での一貫生産により、高品
質な特別仕様車をスピーディに提供



2021年度第2四半期 連結決算概況

<累計>

決算サマリー

先行きの不透明感は依然としてあるが、北米向けの「アルマーダ」や中近東向け「パトロール」等の増加により、売上台数は増加。この結果、損益面は改善したものの、売上高は「収益認識に関する会計基準」等の適用により減収となる。

売上台数

商用車・小型バスは売上台数が減少したものの、乗用車の生産台数が大幅に回復し、前年同期比11千台増の61千台

売上高

台数増の影響はあったものの、「収益認識に関する会計基準」等を適用したことによる影響等により、72億円減少の1,151億円

営業損益

売上台数の増加等により、前年同期比60億円改善し、5億円の損失計上

親会社株主に帰属 する四半期純損益

営業利益等の改善等により、前年同期比34億円改善し、2億円の損失計上

2021年度 第2四半期 決算 <累計>

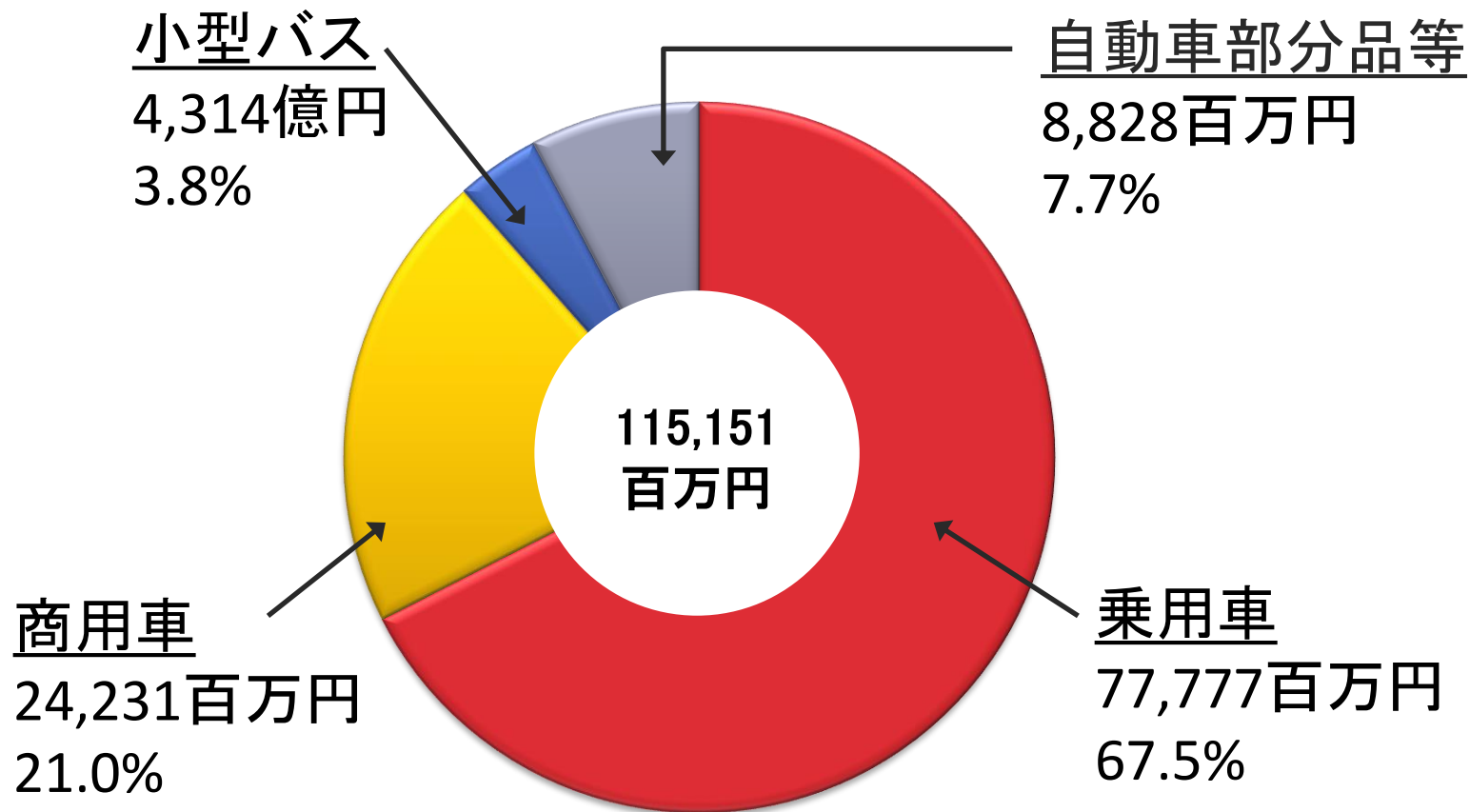
業績ハイライト

	2020年度 第2四半期 (2020/4～9)	2021年度 第2四半期 (2021/4～9)	増減額(率)	通期計画
売上高	122,441	115,151	▲ 7,290	217,800
営業損益	▲ 6,643	▲ 544	6,099	▲ 3,100
経常損益	▲ 6,051	▲ 339	5,712	▲ 2,300
親会社株主に帰属 する四半期純損益	▲ 3,657	▲ 211	3,446	▲ 2,100

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。なお、当該会計基準等の適用により大きな影響の生じる売上高は、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

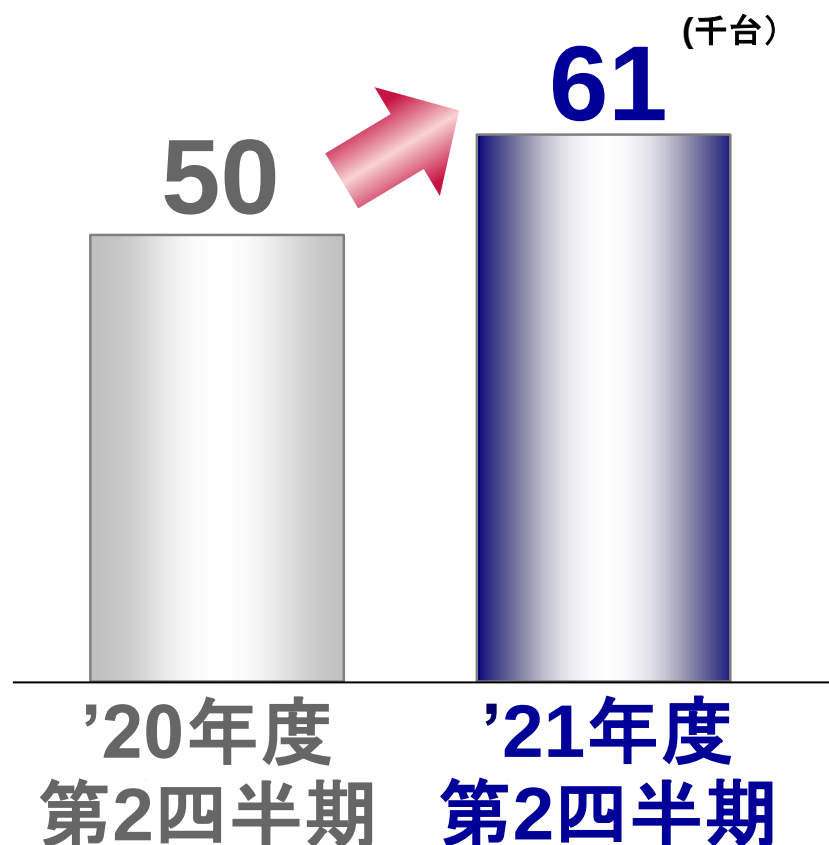
単位:百万円

品目別売上高構成比



売上台数

売上台数は前年同期比22.5%増の61千台

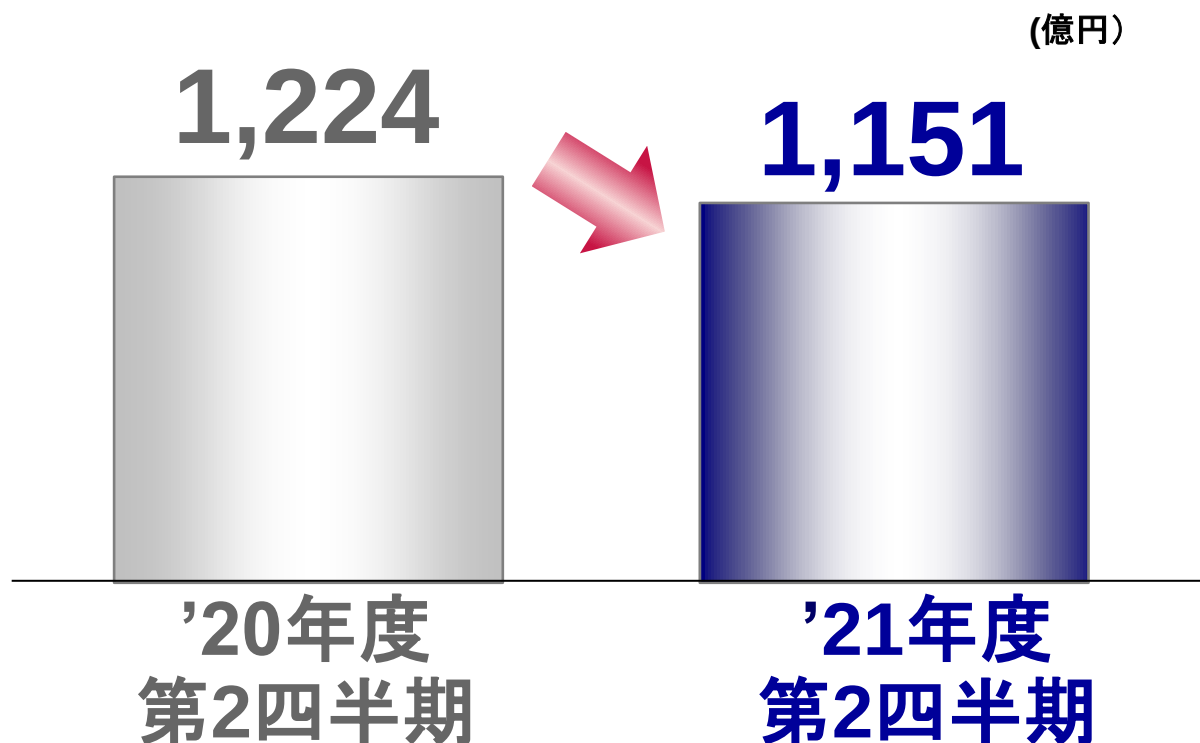


(千台)

	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	16	32	97.2%
商用車	30	26	▲13.3%
小型バス	4	3	▲17.0%
合計	50	61	22.5%

売上高

売上高は、台数増加の影響があったものの、有償支給取引において「収益認識に関する会計基準」等を適用したことにより、前年同期比72億円減の1,151億円

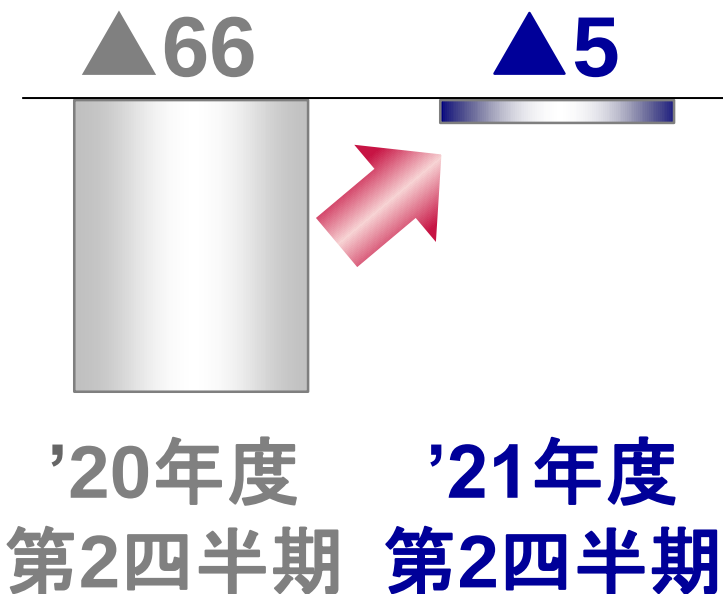


2021年度 第2四半期 決算 <累計>

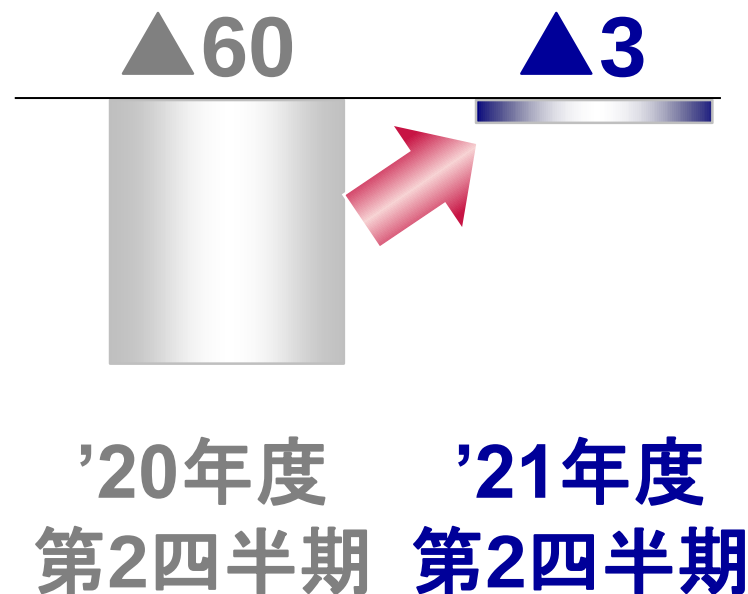
営業損益／経常損益

営業損益/経常損益ともに大きく改善したものの損失計上となった。

営業損益 (億円)

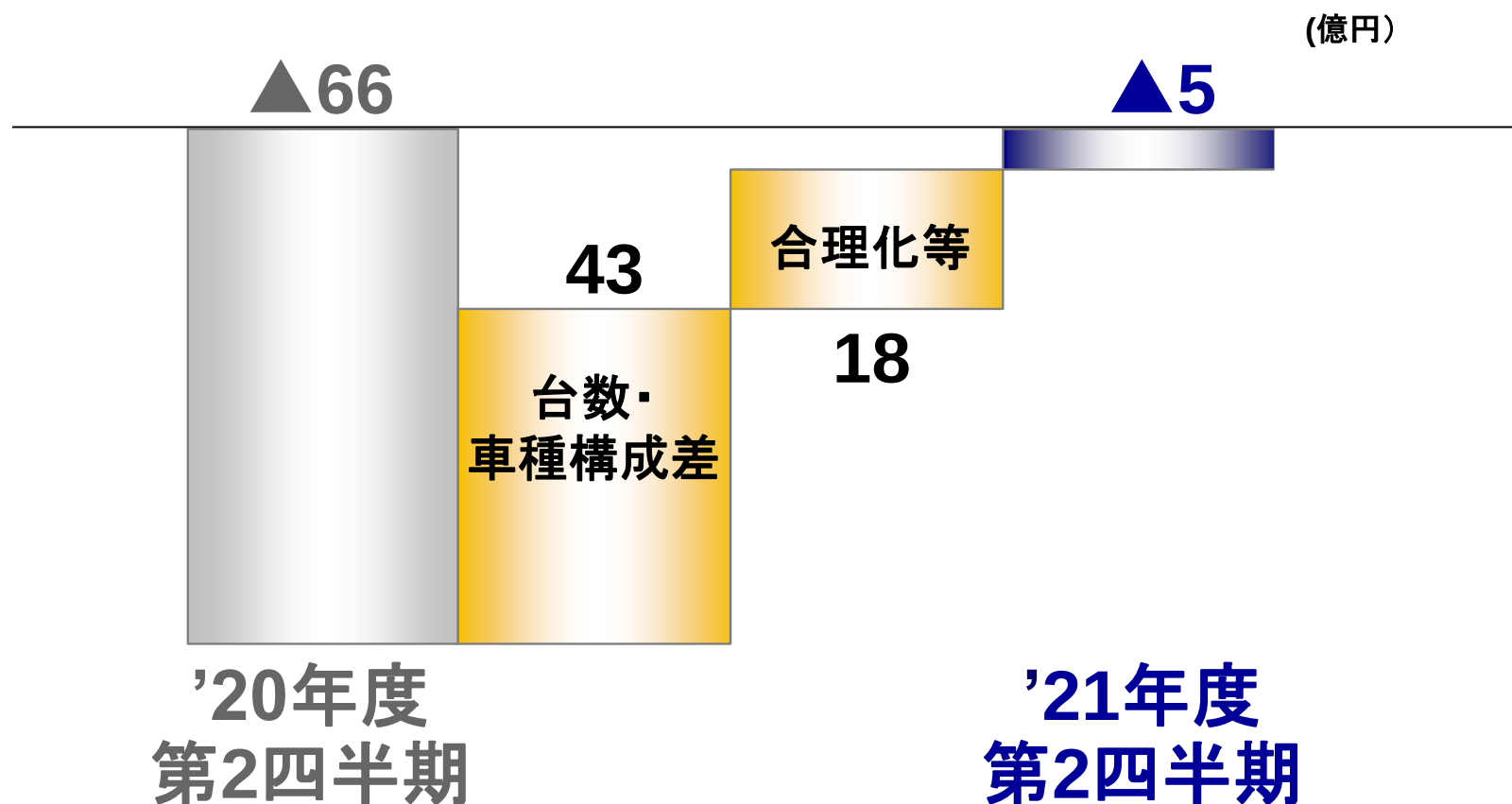


経常損益 (億円)



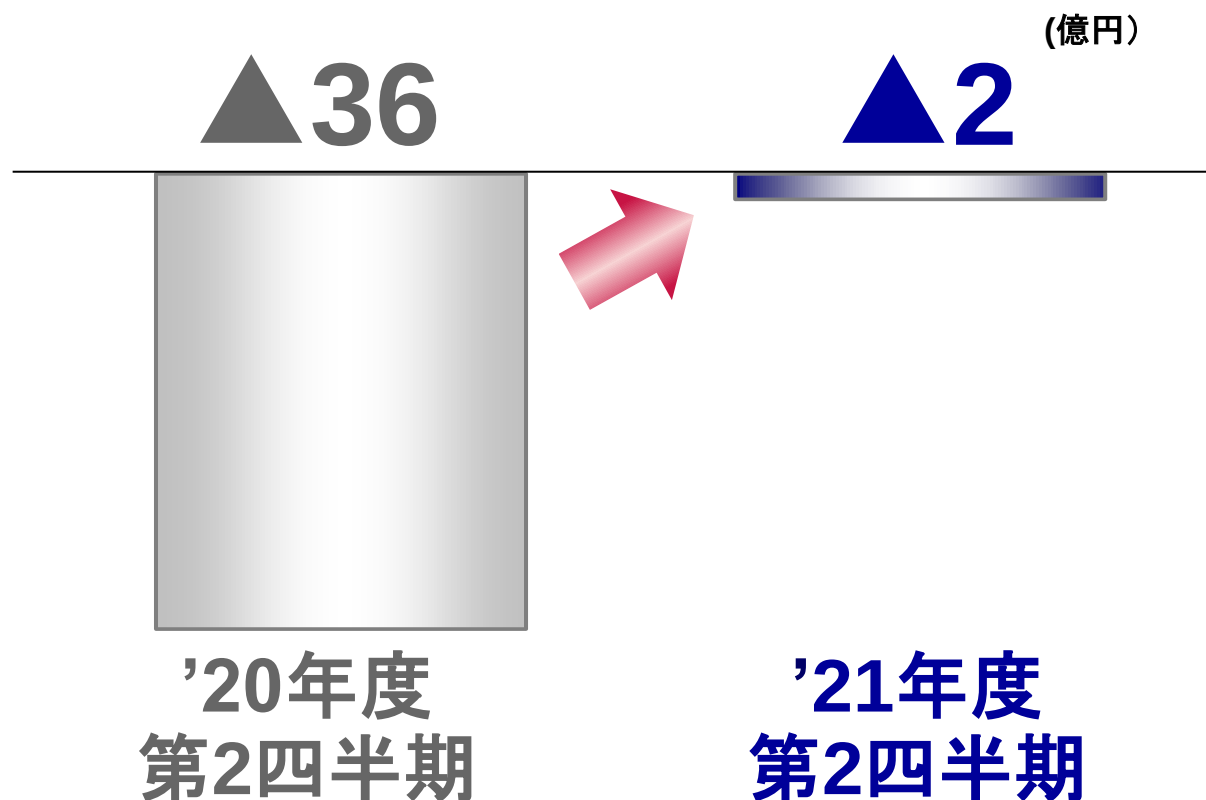
2021年度 第2四半期 決算 <累計>

営業損益の増減要因



親会社株主に帰属する四半期純損益

親会社株主に帰属する四半期純損益は、前年同期比34億円改善し2億円の損失計上となった。



株主還元

継続的な安定配当を基本とし、年間13円を予定

